

福島第一原子力発電所

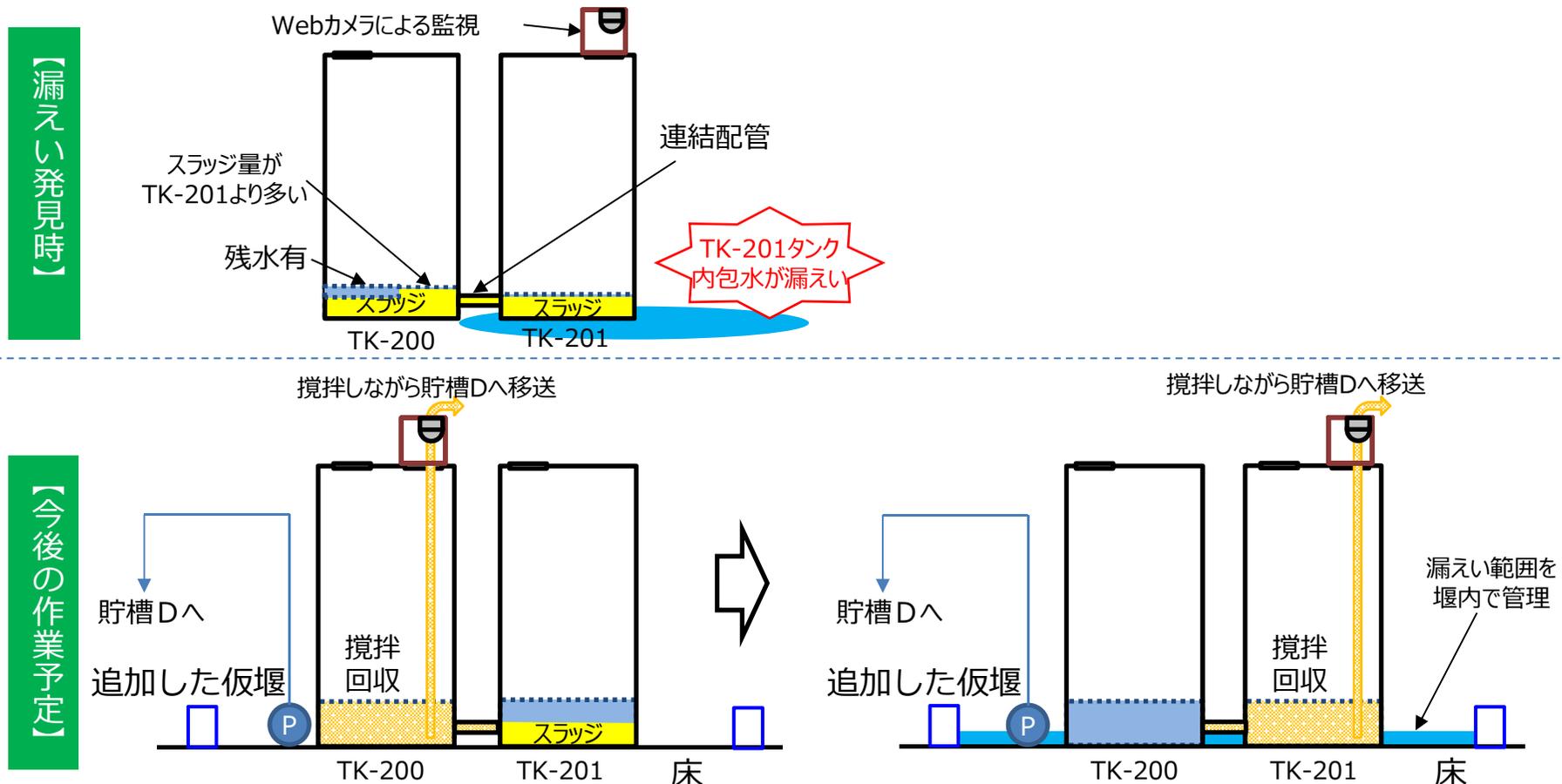
除染装置タンク内の残スラッジ回収について

< 参 考 資 料 >
2 0 2 3 年 4 月 1 0 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- プロセス主建屋に設置している除染装置は、汚染水を処理するため、2011年6月～9月にかけて運転していました。当該運転中に発生した、放射性物質を凝縮した高濃度のスラッジは、同建屋内の造粒固化体貯槽(D)(以下、貯槽D)に保管しています。
- 現在、既往最大事象を越える津波（検討用津波）への対策を目的に、貯槽Dからスラッジを抜き出し、高台エリア（海拔33.5m盤）に移送する計画を進めています。
- また、除染装置内には高濃度のスラッジが残存し(以下、残スラッジ)、その周囲は高線量となっており、貯槽Dに保管しているスラッジの回収作業エリアの線量低減のため、残スラッジを回収し、貯槽Dにスラッジを移送する作業を実施してきました。
- 除染装置のタンクにおいて当該作業を実施していたなか、2022年8月9日、除染装置のタンク内の水がプロセス主建屋内に漏えいしていること、また漏えい自体は停止していることを確認しました。（2022年8月9日にお知らせ済み）
- その後、残スラッジ回収作業を中断し、タンク内外を遠隔カメラなどで調査した結果、漏えい発見時の状況から、除染装置のタンク底部近傍からの漏えいと推定いたしました。
- 本調査を踏まえ、残スラッジ回収作業の再開を前に、当該タンク周辺に堰（以下、仮堰）やポンプ等を追加で設置することとし、その据付が完了したことから、明日(4月11日)から、除染装置内の残スラッジ回収を再開します。
- なお、回収作業において漏えいが確認された場合、仮堰内の水をポンプで回収し貯槽Dへ移送しながら作業を実施します。
- 引き続き、安全最優先で慎重に作業を進めてまいります。

1. 残スラッジ回収作業の概要

- 昨年8月9日に発生した除染装置のタンク内の水の漏えいについて、その原因を調査するため、タンク内外を遠隔カメラ等で確認した結果、タンクTK-201底部近傍からの漏えいと推定しました。
- 除染装置のタンク周辺は高線量エリアのため、漏えい箇所の補修は困難であることから、残スラッジ回収中に漏えいした水が建屋内に拡大しないようタンク周囲に仮堰を設置し、ポンプで回収しながら作業を実施します。
- 残スラッジの回収作業再開にあたっては、漏えいしていないタンク（TK-200）から残スラッジ回収を実施し、その後、漏えいしたタンク（TK-201）の回収作業に着手します。



2. 今後の作業工程

- タンクTK-200の回収作業は4月～5月、タンクTK-201は5月～6月にかけて実施予定です。
- タンクTK-202・203の回収作業は、タンクTK-200・201の実績を踏まえ、スケジュールを検討します。

	4月	5月	6月	7月以降
TK-200	吸引回収	線量測定		
TK-201		準備	吸引回収	線量測定
TK-202～203				準備 吸引回収

TK-200,201の実績を踏まえ、スケジュールを設定

(参考) プロセス主建屋 1階 設備配置図

■ 仮堰や漏えい水回収ポンプを設置し、カメラによる監視の強化を実施しています。

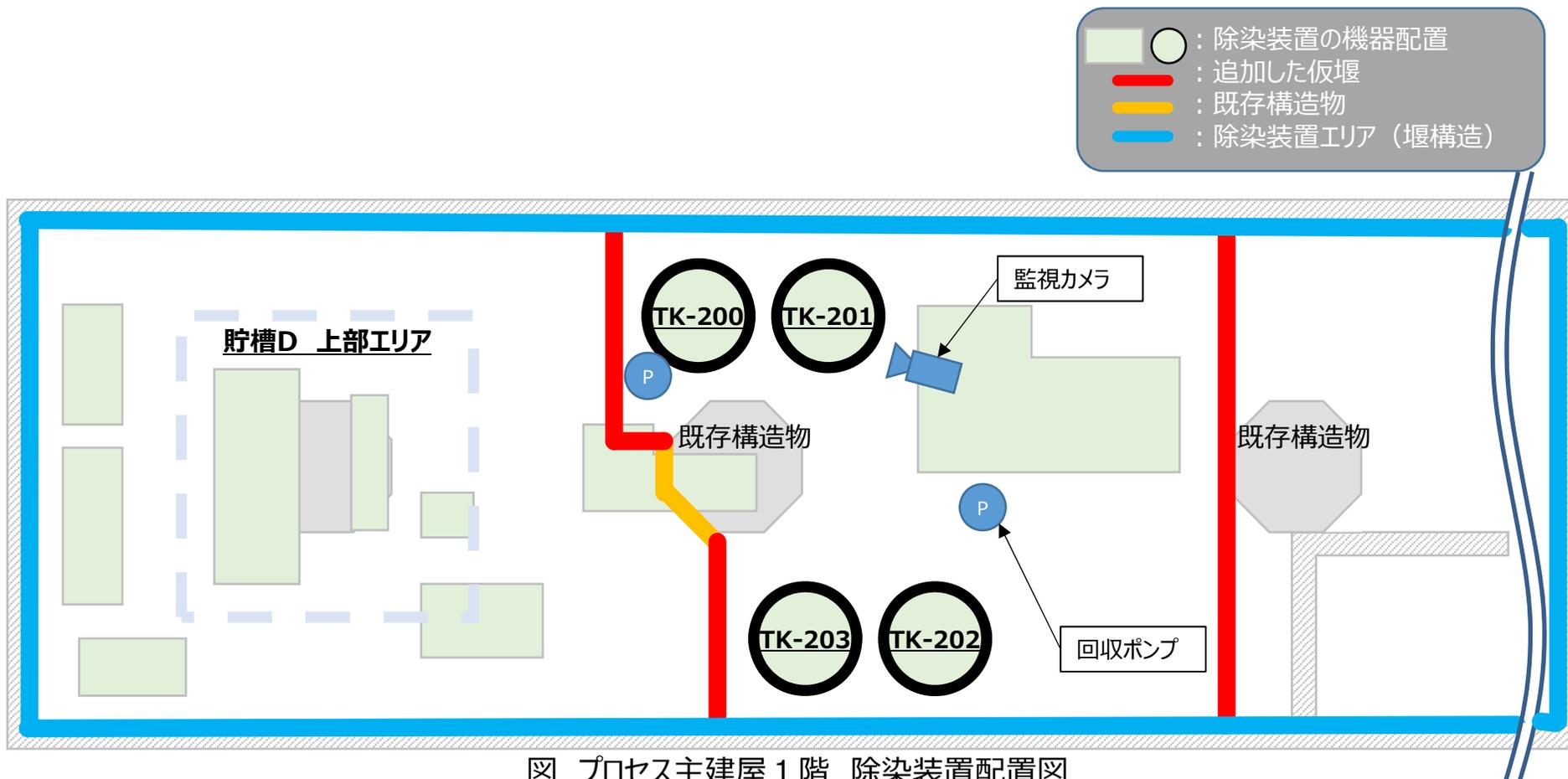


図 プロセス主建屋 1階 除染装置配置図